

# Take the GIC Challenge!

GICセンター所長 すずむらなおき  
鈴木直樹

2016年4月よりGICセンター（Center for Global Interdisciplinary Courses）では英語（または、その他の外国語）による授業で一定単位を取得した学生に修了証を授与するプログラムを開始します。これにはすべての学部学生が参加できます。

GICセンターは「スーパーグローバル大学創成支援」事業の一環として2014年11月に設立された組織で、国際的かつ学際的な人材の育成を主たる目的としています。世界には政治・経済・社会問題、文化摩擦、民族対立、環境問題など、解決すべき難問が山積しています。また、科学技術や医療の研究においては、常に最先端の成果を出すことが求められます。これからの若い世代は、複合的な知識と方法論を駆使してこのような課題に取り組み、自らが得た結論を積極的に世の中へ発信していかなければなりません。GICセンターは意欲ある学生が、英語（または、その他の外国語）でこれを実践するための効果的な学習機会を提供します。単位取得と修了認定の基本的な仕組みは次の通りです。

- (a) 分類：コア科目とリサーチ科目
- (b) コア科目：基礎的な科目で、おもに日吉キャンパスとSFCで開講
- (c) リサーチ科目：専門的な科目で、各学部や国際センターで開講
- (d) コア・リサーチ両者の取得合計が40単位以上となった学生にGIC修了認定証を授与
- (e) コア科目とリサーチ科目の取得割合は自由

教育機関としての大学が、母語の他に少なくとも英語を駆使できる国際的な人材を育成することは、いまや社会の要請であり、学生のニーズです。GICセンターが2016年度に新設する授業も、春学期・秋学期ともそれぞれ約40コマにのぼります。しかし、これは学生全員に一律に英語の授業を課すものではなく、大学が設置する全科目の英語化を目指すものでもありません。基本はあくまでも母語にあります。『学問のすゝめ』第17編には、まず「言語を学ばざるべからず」とあり、さらに「何はさておき、今の日本人は今の日本語を巧みに用いて弁舌の上達せんことを勉むべき」と述べられています。

GIC科目は学部の履修案内に従って自由に履修できます。学習意欲のある者が好きなだけ学べる制度です。40単位に到達する必要はなく、2単位だけでも履修が可能です。世界に広く関心を持ち、人との積極的な交際を推奨した福澤先生は、『学問のすゝめ』を「人にして人を毛嫌にするなかれ」と結んでいます。ならば我々は「人にして言語を毛嫌にするなかれ」です。

Take the GIC Challenge! の旗印のもと、GICセンターは意欲あるみなさんの挑戦をお待ちしています。

---

問合せ先：gic-office@adst.keio.ac.jp